

◆28 番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。自民党岡山市議団の森田卓司でございます。

まず初めに、ひとり言を言わせていただこうかと思っております。

北朝鮮のことで極東アジア、非常に気になるところでございますが、昨日のマスコミ等の報道で中近東のほうもいろいろな動きがあり、本当に世界情勢が気になるところでございます。

そして、忘れてはならないというか、きょう 12 月 8 日は何があったのかというと、産経新聞の 1 面に真珠湾攻撃きょう 76 年という記事が載っておりました。真珠湾攻撃、これにはいろんな解釈があると思いますが、その日であることは確かでございます。

また、音楽業界で言いますと、世界でもそれから日本でも大きな影響を与えたジョン・レノンが亡くなった日でございます。ジョン・レノンはビートルズの一員であり、そしてソロになっても、ここで歌ってはあれですけど、「ラヴ」とか「イマジン」とかいろいろ本当に皆さんが知っている名曲をつくった本当に忘れられないアーティストでございますし、今でも多くの若手のミュージシャンにも影響を与えているミュージシャンであると思っております。

そういう 12 月 8 日というのは大切な日なんだなということでこの日に登壇できたことを誇りに思っております。（笑声）

それでは、通告に従いまして質問に入らせていただきます。

まず、2 項目め、市有財産の有効活用について（旧建部町温泉会館）、このことは質問を取り下げようと思っております。今までずっと質問を書いてきましたが一番いい文章を書けたなと思ったんですが（笑声）、そういう中で 12 月 5 日が売り払いの入札日であって、僕の原稿の締め切りも 12 月 5 日でした。入札は 1 時半から開始したそうでありまして、担当課長さんが落札者がありましたと言うてこられました。本当にええ文章を書いとったんですよ、私。で、もうこりゃええ答弁をもらえるだろうと思っていたんですけど……。この旧建部町温泉会館の土地は本当にすばらしい、景観もいい土地なので、その契約はまだ済んでいないので余り言うといけないのかもわかりませんが、落札者、応札者があったということは非常によかったのではないかと思っております。

それでは、質問に入らせていただきます。

まず、1、市長の政治姿勢について。

(1) 周辺地域の活性化について。

本年 8 月定例岡山市議会の提案理由説明では全く触れることがなかった中山間・周辺地域の振興に対して、今議会の提案理由説明では冒頭に今こそ新たな取り組みを始めるときであると力強く所信を述べられました。選挙戦を通じて市民の方々の思いをしっかりと聞く中でそれに答えるのは自然なことであり、重要であると思っております。大森市長の 1 期目に

何度となく、そしてあらゆる角度から中山間・周辺地域の活性化を訴えてきた私にとりましても、来年度予算及び2期目の大森市政に大きな期待をするところでございます。

そこでお尋ねいたします。

①2期目を迎えて、中山間・周辺地域の振興、活性化について具体的な政策、予算編成についての御所見をお示してください。

②小規模多機能自治に対する岡山市の取り組み状況をお聞かせください。

次に、(2)職員との対話についてお尋ねいたします。

所信で表明されたとおり、1期目4年間は市民の皆様方と一緒に考え、一緒に行動することを心がけながら市政運営をされたと思います。例えば市長と大盛トークでは、町内会長や公募の成人市民の方々を20名弱程度、おおむね2中学校区を1単位として、またさまざまな分野、業種の方々とテーマを設けて開催されました。2期目も市民の皆様方と一緒に考え、一緒に行動することは変わることなく政策課題等に取り組むべきであると思います。我々議員も、手法等はそれぞれだとは思いますが、市民の皆様方との対話から生まれた市政に対する要望や課題を本会議での質問等で市政に反映することも大きな仕事であると私自身は思い、活動しています。

一方で、本年6月にはおかやま若手政策実現プロジェクトを設置し、若手職員の柔軟で創造力のある発想やアイデアを新規事業の創出、政策提言等につなげる実践的な仕組みをつくり、10月27日には活動報告会が開催されています。幹部職員の皆様方とは市政運営の課題等々さまざまなことで話をされる機会があると思います。

そこでお尋ねいたします。

中堅・若手職員の方々は直接多くの市民の方々と接する機会も多く、さまざまな意見を聞いていると感じています。その中には課題解決のアイデアもあるのではないのでしょうか。市長が直接、中堅・若手職員と積極的に対話する機会を持つべきだと思いますが、御所見をお示してください。

2の市有財産の有効活用については質問を取り下げます。

3、小規模校におけるICTを活用した学校づくりについてお尋ねいたします。

少子化が進み、小規模校にとっては今後の学校運営も非常に厳しい状況になることが予想されます。そのような中、小規模校におけるICTを活用した学校づくり事業が本年度から行われています。小規模校においては、対話をする対象が限られ、特に同学年の児童との学び合いの場が少なく、中1ギャップを引き起こす可能性があり、また地域社会について学んだことを発信したり新たな社会の動きについて情報を得たりする機会が少ないと学習意欲の停滞につながる可能性があること示され、複式学級編制の対象となる8小学校にICT機器が導入されています。

そこでお尋ねいたします。

(1) 現段階での対象校の現状と成果そして課題をお示してください。

(2) 他県でも同様の事業を行っていますが、先進的な事業であり、今後の取り組み方によ

り多くの成果を上げることができると思うが、御所見をお示してください。

以上で1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

◎大森雅夫市長

それでは、森田議員の御質問にお答えします。

森田議員は今、世界情勢から入られたんですが、私も世界情勢を心配しないわけじゃないんですが、とりあえず岡山市の今、イベントを心配してしまして、あさってのみつ健康マラソン、エントリーしているんですけど走れるかなと、おかやまマラソンから走っていませんので、はい、そちらを心配しているところです。(笑声)

職員との対話について私、申し上げたいと思います。

一つ一つの市政運営に当たって、私は今おっしゃられたような多くの幹部の職員と打ち合わせをよくするわけでありまして、できるだけそこで若手の職員からも話を聞くようにしています。できるだけ一緒にテーブルに着いてもらって、そこで話を聞くようにしています。いろいろと参考になることは本当に多いわけでありまして。私が幾つか例えばこういうふうにしたらいんじゃないかというようなことも、岡山っ子育成局は今、保育の関係で現場も大変になっておりますが、現場の立場からいってそんなことはできないということをはっきりと言われたこともあります。そういうことを繰り返しながらやっていくというのは非常に重要だと思っています。森田議員おっしゃるように、そういう場では私自身やらせていただいていますけれども、ほかに何か新たにそういう……、新たに中堅・若手職員との機会をセットしても、そこは改まった議論になっちゃって必ずしもよくないかもかもしれませんけれども、とにかくいろんなことを模索しながら若手・中堅職員と話をすることに努めたいと思います。

以上です。

◎鉄永正紀政策局長

市長の政治姿勢についての項、周辺地域の活性化についての中で、中山間・周辺地域の振興、活性化の具体的な施策、予算編成の所見をとのお尋ねにつきましては、自民党を代表しての和氣議員にお答えしたとおりです。

◎江田美幸市民協働局長

同じ項、小規模多機能自治に対する岡山市の取り組み状況についてお答えいたします。

地域の課題が多様化する中で、その解決に向けた取り組みの一つとして小規模多機能自治での取り組みも有効であると考えております。岡山市では学区、地区の安全・安心ネットワークの会長や町内会長等を対象に地域リーダー養成講座や地域協働フォーラムなどを開催し、小規模多機能自治の趣旨や進め方について学ぶ機会を設けるなどの取り組みを行

っております。こうした取り組みにより、それぞれの地域にふさわしい協働の仕組みづくりを考えるきっかけになるのではないかと期待しているところです。

以上です。

◎菅野和良教育長

小規模校におけるICTを活用した学校づくりについての項を一括してお答えいたします。

対象校は8校で、2校ずつ4つのペアをつくり、運動会や学習発表会などの様子や授業で調べたことについて紹介し合っております。交流を重ねることにより子どもたちの親交も深まり、もっと一緒に勉強したいという声も聞こえてまいります。授業前の打ち合わせのこと、また機器の設定に時間を要するなど課題も多くあり、当面教育委員会の支援が必要と考えております。現在のところペアの学校で実施しておりますが、そのほかの学校と交流したり、市内にとどまらず国内外で活躍する方々とつないだりすることも今後可能であるとと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

ありがとうございます。

みつ健康マラソンですが、きのう僕ちょっとだけ練習しまして、ちょっと足が大丈夫かなと思っているところですが、3キロも走ってないんですけど、でもきのうしかする日がないなと思って。負けないように頑張ります。（笑声）

まず、中山間の件でございます。

自民党市議団の代表質問に答えたとおりのことではございますが、和氣議員が代表質問されたんですけど多分その中では振興基金のことを主に聞かれていると思うんです。その振興基金をどう使うかというのは市長が言われるようにこれからの課題であると思うんですけれど、今、私たち合併地域の4人の議員がいるわけですが、新市建設計画・基本計画で、道路とか下水道とか継続事業はまだまだ続くわけですが、大きな事業は大体終わったような感じがしています。その中で、選挙戦を通じて市長も聞かれたということではありますが、人口減少等によって本当にさみしいとかそういう意味の言葉や、合併地域では本当に合併してようねかったなとかという声もまだまだよく聞きます。これから周辺地域、中山間地域をどういうふうにして盛り上げていくか、振興していくかという大きな課題についての質問に対してお答えをいただければと思います。

◎大森雅夫市長

8月議会で森田議員は、浜松市の例を出されて、周辺地域の話をされました。そこで勉強会を事前にやっていたときに、これだけの交付金とかお金がどういうふうな形で出

たのかという話を担当のほうに聞いたところ基金の話が出て、それまでも市役所のスタッフとしてはその基金の使い方みたいな議論はしていたらしいんですけども、実際正直言って私が承知したのはそのときであります。これを一体どうするかというのはそれ以降常に頭の中にはあったのですが、今回、建部、御津にも行かせていただきました。そして、瀬戸にも行かせていただきました。灘崎にも行かせていただきました。そして、合併地域だけでなく、やはり相当中山間の状態である足守等々にも行かせていただきました。そして、多くの方からお話を伺ったところでもあります。個々での話を申し上げる場ではないと思いますけれども、それぞれの方が切々と訴えておられました。我々の生活はこれからどうなるんだろうというような不安感が非常に満ち満ちていたと私は思います。

そういう面で私自身、中心市街地が岡山を牽引していくということはこれからも必要だとは思いますが、そういう合併地域、周辺地域の方々の思いにどう応えられるのかということで今回、その35億円という基金を使うのは今しかないんじゃないかというような思いに至ったわけであります。これから使い道を議論していかなければならないと思いますが、単に資金を使うというだけで物事が動くとは思いません。しかしながら、これを1つのきっかけとして地域の活性化そしてきずなの維持、そういったことにぜひ使ってプラスにしていきたいなと思っている次第であります。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

そういうことで市長の方針はよくわかりました。

それで、その上でやっぱり2期目でやらなくてはいけないことと、これからの10年間をかけてやらなければいけないことと分けて考えるという言い方がいいかどうかわかりませんが、今、目に見えて本当に自分たちの周辺地域が動いているんだというようなことをやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

◎大森雅夫市長

非常に難しい質問であるわけですが、まずなぜ10年というのをひとつイメージしたかという、これは数年でできる話ではなくて、10年なら10年という一定の期間が必要だろうということで10年というのをとりあえず考えさせていただいたということなんです。じゃあこの4年に何をやるかというところは、やはり軌道に乗せるということなんじゃないかなと思っているんですね。だから、まだそういう事業のスキームも整理はできていないところでもあります。気構えだけを述べさせていただいているにすぎないところはありますが、私のこの2期目の間で軌道に乗せていきたいと。

合併地域というのはちょっと横へ置いておくと、中山間というのは日本中にもうあるわけですね。それが必ずしもうまくいっているわけじゃない。だけど、岡山市の周辺ということであれば、まだまだ大消費地に近いということもありますし、私は少しコストを低

減らせていくとかということができれば、大きくビジネス、コミュニティービジネスは成り立っていくんじゃないかとも思っているんです。だから、そういう面で少しトライして前に進んでいきたいと思っているところであります。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

例えば、今年度やっていただいている分で県道高梁・御津線のちょうどホテルまつりをするところがあるじゃないですか、あそこら辺の道路を拡幅してくださいという要望があって都市整備局をお願いして、今回、コンサルの入札で概略設計とかそういうものやっただけようになっております。いろんなことで物事が動かなかったところが少しずつでも動くことで皆さんと一緒に夢を見て、この道が10年かかるか15年かかるかわかりませんが、そういう道ができる一歩を踏み出したんだということが大切なことだと思っていますので、今、市長が言われたような形でぜひやっていただきたいと思います。

続いて、小規模多機能自治に関してお伺いいたします。

1点だけの質問で終わりたいと思うんですけど、安全・安心ネットワークという言葉が出てきたんですが、安全・安心ネットワークがうまく機能しているところばかりではないと思うんです。これも今回、機構改革で審議監制をなくして部長制というふうに変わっていくわけですけど、安全・安心ネットワークも高谷市長のときの肝いりでできた施策だと思います。そういうものをもう一度検証してみる必要があるのではないかと思います。いかがでしょうか。

◎江田美幸市民協働局長

安全・安心ネットワークの活動につきましては、それぞれの地域においてそれぞれの課題があり、その実情に応じた活動を行っていただいていると考えておりますけれども、この安全・安心ネットワークも10年目を迎えておりまして、安全・安心ネットワーク連絡協議会の中でも今後のあり方について、今までの10年間の課題とか成果といったようなことも振り返っていただきながら意見交換等をしていただいているところであります。ですので、そういった協議会の方の御意見とかもお聞きしながら、今後、安全・安心ネットワークの取り組みも含め、それぞれの地域に応じた協働の仕方というものはどういったものがふさわしいのかというようなことについて引き続き検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

1回だけと言うんですけど、もう一回。

安全・安心ネットワークについては、当初から思っていたんですけど、同じような人が同じところで何回も会議をするような形に、特に人口が少ない地域になるとそういうふ

うになってくると思うんですよ。ですから、そういう中で人づくりというか、若い人からみんなが参加してくれる……、名前はあるんですよ、名前はあるんですけど、どうしても町内会長さんなら町内会長さん、もう本当に同じ方が集まって別の名前で会議をしているというような状況になっていると思うので、そこら辺もちょっと検証してみたいんですが、いかがでしょうか。

◎江田美幸市民協働局長

議員の御質問の中に小規模多機能自治というふうな御質問もございましたが、そういった事例も今、勉強もしていただいて、主には人づくり、地域づくりというところでそういった若い方にも入っていただけるような組織づくりというのがやはり継続的な地域をつくっていくために必要だと考えておりますので、そういったことも踏まえながら検討させていただきたいと思います。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

よろしく願いいたします。

それでは、最後の項でICTを活用した学校づくりについて。

まず、この授業で、子どもたちはどのような感じであるのか、わかっているか教えてください。

◎菅野和良教育長

私も授業に参加したというか一緒に参観いたしました。子どもたちは自分が調べたことを相手校の子にしっかり伝えようといろんな工夫をして授業に臨んでおりました。いわゆる表現力といいますか、また相手とのコミュニケーション力、こういうものを高めようと努力している姿がわかりました。ただ、相手校の子どもと議論しているかという点、まだ紹介し合っているという状態で、まだ何度もそういう機会があったわけではないのでこれからだと思うんですが、いわゆる紹介し合っているという状態であります。ただ、答弁でも申しましたがもっと一緒に勉強したいという意欲が本当にどんどん湧いておりますので、いい取り組みだろうと考えております。

◆28番（森田卓司議員）

先ほどの答弁で教育委員会が当分はお手伝いせんといけんだらうというような答弁だったと思うんですけど、現場にいる先生方は本当に忙しいのにこんなんやって、忙しい上に忙しゅうなったと思われないように、先生方の理解ということについてはどういうふうに使われているのか、御所見をお示しください。

◎菅野和良教育長

先生たちにとっても、子どもたちがいろんな子ども、より多くの子どもとコミュニケーションがとれるというのはいいことだと思っております。したがって、こういうことをやらされている感ではなくて、中にはもう教育委員会の支援を余り必要とせずに進めていけるような先生もおりますから、これからそういうスキルをどんどん広めていくということで、やらされている感がないようにしていきたいなと考えております。

◆28番（森田卓司議員）

僕らもええものにしていきましょう、していきましょうといっても現場の先生に負担になっては何にもならないと思いますので、ぜひそういうところは注意して状況を確認しながらやっていっていただきたいと思います。

先ほどペアでと言われていたんですが、今は8校ですから4ペアでやられていると思います。そういう部分はいろんな答弁であったように組み合わせを変えたりとかしてやることも重要なのではないかと思いますし、それから例えば僕よりずっと若い方なんですけど大学の准教授をやられている方から聞くと、奈良県のほうでそういうふうなことを導入したりしてやられている学校もあります。そこも6年生が3人ぐらいでやられています。そういう方のお話を聞くと、さっき言われた国外との交流というのも大切なのではないかと思います。JICAとかそういうところとの交流も考えることはできないでしょうか。

◎菅野和良教育長

御指摘ありがとうございます。本当にペアだけではなくてもっともっと可能性は広がっていくと思います。JICAの方、また世界には約90校の日本人学校もございますので、そういったところといわゆるスカイプを通して交流できればいいとも考えますし、それから例えば学校同士の交流だけではなくて、国内外で活躍されている方と子どもたちが話ができるというようなことも進めていきたいなということもあわせて思っております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

ぜひ今年度からの授業なのでいい展開をしていけるように頑張っていただきたいと思っております。

最後の質問になりますが、市長、先日、福渡小学校に視察に行かれたとマスコミ、新聞等で報道されていましたが、そのときの市長の御感想を聞かせていただいて、私の質問を終わりたいと思います。

◎大森雅夫市長

私は、小学校は鹿田小学校、中学校は桑田中学校という両方ともマンモス校なんですね。

だから、愚者は経験に学ぶということが言われているように、私、本当にああいう小規模校に行ったのは初めてでありました。1人たしか休んでおられて、6人のところが5人だったですかね。となると、やはり竹枝小学校は複式学級だったですね。コミュニケーションスキルという面では、やはり少し改善していかなければならない状態になるんじゃないかなという感じはいたしました。より多くの人と話して、いろんな性格の人がいるんだということを実感してもらおうということは非常に重要だと思い、そのICTの授業を参観させていただいたわけであります。

教育長とは同じ学校で見たわけじゃないんですけども、私も同じで、両校が触れ合っていくということになるのは間違いないから、そういう面ではコミュニケーション能力が高まっていく可能性は高いと思います。それは非常にいいことなんですけど、しかしながらまだ最初ということもあってお互い恐る恐るやっついて、授業というのはまだそこまではいっていないのかなと。あれをどんどん進めていってお互いが議論していくというようなところに持っていかないと、このICTも少し意味がないんじゃないかなと。そういう面では先生方のスキルも上げていかなきゃいかん。まださまざま勉強することは多いんじゃないかなと思っております。そういう面ではこれからも教育委員会に対してそういうスキルを高めるように指示してまいりたいと思います。

以上です。